

第10回全日本ブラインドセーリング選手権大会 参加者レポート

とどいた！祈りのシューティング

チーム・エオリア ヘルムスパーソン・内村千文

2011年9月、たおやかな水面に誰もが予想しなかったことを風の神が奇跡を起こした。

第10回ブラインドセーリング全日本選手権大会が浜名湖で盛大に開催され、我がチームエオリアも東京支部代表としてエントリーを認められました。

多くのスタッフとボランティアの皆さんのおかげで素晴らしい大会にさせていただいたことに、心より感謝申し上げます。

私たちブラインドは多くの人たちに支えられながら、神様への挑戦を宿命としてセーリングを楽しんでいます。参加した8チームのクルーたちは地元の人たちの温かさにこたえるべく全力でレースに臨み、勇気と感動を共有することができました。

さて、24日12時のレース信号を皮切りに第1レースの競技が始まりました。

予選通過を目標に臨んだA組1レースは第2位、第2レースは第3位となり、落胆するクルーたちに申し訳なくて食事ものを通らないありさま。しかし、他のチームの成績を知ること、首の皮がつながりぎりぎりの予選通過を果たすことができました。その夜のウェルカムパーティーでは、浜名湖支部のスタッフたちのもてなしに美酒を堪能したことは言うまでもありません。本当に楽しい時間とごちそうをありがとうございました。

そして、25日の決勝ラウンドは午前9時のレース信号に第1レースがスタートし、風をとらえることもなく第3位でフィニッシュ。反省ばかりのレースでスキッパーの指示も怒声に変わり、目を閉じてても頭は真っ白になるばかりでした。

そして最終レース5分前の信号と同時に懐かしい風を感じたような気がしました。

それは5月、漁船が避難する中での岬口で練習したチーム合宿。また9月、台風の中の横浜港国際レースと同じ風を感じ気持ちが奮い立つのがわかりました。

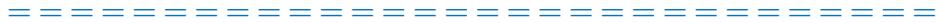
そして、最終信号の合図に快調なスタートを切り、風は全身にみなぎり過去にないセーリング。後ろに3艇を従えながら前方の水面を見て「最高の景色だねー」とジブトリマーの余裕満面のセリフ。それには、前日のレースでブームパンチを受けてこぶを作りながらの操船にちょっと恩返しできたかなと心に笑みを浮かべてみました。しかし、そんな余裕は楽しい時間が過ぎていくかのようにあっという間で、第2下マークを回るころには1艇にかわされもう1艇にも並ばれ万事休す。マーク廻航後のクローズで風を感じ快調な滑りを感じたゴール前、スキッパーのささやきは「決めれるか」でした。

それは、フィニッシュミスをおかした前レースを思い出したが返した言葉は「やります」でした。あの時のやり取りを思い出すだけで冷や汗が流れてくるようです。

そして、スキッパーの最後のコール「行け」！の合図に、ティラを握る手はとどいてくれ

と祈りを込めていました。高々と鳴るホーンが耳に届いた瞬間、「ナイスシューティング」と低い声がやさしく包んでいました。大会中の初めてのトップ入線は、最後に風の神「エオリア」が与えてくれた一等賞になりました。

こんな素晴らしい感動を与えてくれた、チーム・エオリアのクルーに「ありがとう、そしておめでとう」の言葉を贈ります。



ースレポート チーム「ハマナッコ」
作成、森崎、*印（齊木）

（チーム名）
ハマナッコ

（メンバー）
サイトットスキッパー：齊木 ジブシートトリマー：山本
ヘルムスパーソン：森崎 メインシートトリマー：渡瀬

（成績）
予選 第1レース：1位 第2レース：2位
決勝 第1レース：2位 第2レース：2位
総合順位：2位

（内容）
チーム「ハマナッコ」は7月末にできたホヤホヤのチームでした。メンバーの予定が合わなく、全員そろっての練習は半日しかできませんでした。またメインシートを担当した渡瀬さんは、昨年に入会した方であり、レースを意識して練習を始めたのも6月頃でした。ヘルムを担当した森崎もいつもはメインシートトリマーが担当で、ヘルムでの全日本参加は初めてという不慣れなものでした。齊木さん、山本さんはヨットのベテランであり、二人のコミュニケーションは全く不安のないものでしたので、課題としてはブラインド2人のスキルアップにかかっていた。

練習はもっぱらチーム「スッポン」との合同練習という形でした。とにかく藤王さん、名畑さんの指導のもと、レースを想定して上・下を何度も走らせました。その甲斐もあり、また渡瀬さんの努力もあり、9月ごろには随分と安定して走らせられるようになっていました。

*初めてチームを組んだチャレンジ230との合同練習の時とは見違えるチームになっていました。（齊木）

我々のチームは9：30にマリーナに集合しました。普段から練習しているところであり、渡瀬さんも随分とリラックスしている様子でした。抽選では、これまた1号艇のコーラルリーフで、普段の練習艇という絶好の条件で予選リーグに臨むことになりました。メンバーでの練習はほとんどできていなかったもので、少しでも早く海面に出ることにし、レース前の貴重な時間をコミュニケーション、レースの想定などに費やしました。渡瀬さんについては山本さんが、森崎については齊木さんが、基本的に指示することとし、言葉の聴き間違いによるミスをなくすことに努めました。

いよいよレース開始です。

予選

第1レース

風は3メートル前後と、我々にはちょうど良い条件でした。スタートは、とにかくスピードをつけることに努めました。少し後ろでも構わないので、邪魔されずに、左海面に抜けることにしました。予定通りにスタートを切り、後は安定して走らせることでした。ここで急遽、練習をしていなかったトラベラー移動の指示がありました。渡瀬さんも最初は戸惑っていましたが、山本さんの指導のおかげで、何とか対応することができ、スピードに乗った走りができました。大きなミスもなく、第1上マークの頃にはトップになりました。観音のランニングでは、ジャイブ後の方向が安定していなかったもので、より細かな指示をもらいながら、微調整に努めました。そのせいか下マークではかなり後ろと差をつけることができました。そのままクローズでもおおきなミスをする事なく、安定して走らせました。風が弱く時間がかかっていたのか、コースが短縮され、上マークでそのままフィニッシュとなりました。

*スピード重視で、安定した走りをする事に努めました。(齊木)

第2レース

風は4メートル前後と少し上がってきましたが、まだ走らせやすい絶好の条件でした。第1レースと同様に左海面を取ることに努め、ほぼ同様のレースを行うことができました。風が振れ気味でしたので、それに合わずように、細やかな指示に従い、走らせました。チーム練習ができていなかったこともあり、走らせるうちにどんどんとコミュニケーションが上手にとれるようになっていったと感じました。それが「ハマナッコ」の安定した走りにつながりました。

*これ位の風ではそれぞれが自信をもって集中して走らせることができたのが勝因かと思えます。(齊木)

2日目

6：30からしっかりと、朝ごはんを取り、デジタル放送で風向きを確認してマリーナに向いました。この時点で今日は東に振れるのでと、齊木さんのコンピューターがレースについて、色々と計算をしていました。レース艇は「ハヤテ」と決まりました。昨日と同様に、少しでも海面で打ち合わせができるようにと、一番に出かけました。そこで不慣れな「ハヤテ」のセッティングを齊木さんと、山本さんが本当に丁寧に何度もやり直してい

ました。

決勝

第1レース

風は4～5メートルと昨日より少し強めでした。スタートでは、少しラインから離れてしまったために15秒遅れとなりました。しかし十分に追いつけると信じて、全員が集中して走らせることに努めました。今日は左海面の風が振れており、右海面の風が安定していたので、右の方を取るようにしました。その作戦のおかげか、第1上マークの頃には1艇を交わし、3位となりました。そのまま「集中・集中」と言い聞かせながら、走らせ、第2上マークではもう1艇を交わし、2位となりました。最終的には1位と30秒遅れの2位でした。反省で、「スタートの遅れと上マーク辺りでオーバーセイルしたことであわせて30秒はロスしていた。」ということで、走りは負けていないことが確認されました。
*振れる風の中でのスターボーの上マークへのアプローチ難しいですね。運ですかね。(齊木)

第2レース

風は6メートル程度とかなり吹いてきました。スタート3分ほど前に森崎がタックで不十分な回しのまま、体を反対に移動してしまったために、齊木さんの指示をどう処理していいのかわからなくなり、少し危険な状態となりました。そのせいで、スタートの位置取りが不十分なままとなりました。ここでも走りでは負けないようにと、全員が一丸となって走らせました。渡瀬さんも、一生懸命にメインシートの出し入れをおこない、その度にその息遣いが伝わってきました。第1上マークの頃には3位に上がっていたように思いますが、ここでもまたスタート前と同様の失敗をしてしまい、他艇と離されてしまいました。風がまた少し上がったようで、渡瀬さんがいよいよトラベラーの操作は厳しくなり、この辺りで、中央での固定となりました。少しでも走りでのミスはなくすように集中し、走らせました。第2下マークのアプローチでは3位となり、1～3位がだんご状態となりました。我々は安全を取り、混戦を避けて外側を回ることとしました。マーク回航も無事にでき、2位に浮上していよいよ最後の上り勝負となりました。何とか安定して走らせ、一時は1位とも思われましたが、フィニッシュでは30センチ程度の差で2位となりました。残念。

*風が上がった時のタッキングにチーム練習の少なさが露呈してしまいました。自分達のミスで順位を落としましたが、それでも諦めずに頑張った結果最後の首位争いが出来ました。(齊木)

即席チームではありましたが、全員がそれぞれの役割を果たし2位となれたことは大変に良かったです。エクステンション、トラベラーの操作など課題はいくつもありますが、まあまあ運と実力で乗り切ったというところでした。

*風が強くなった時の走りなど苦手なところを克服するところがまだ不足していると思います。まだまだ向上できるチームですので、これからも期待しててください。優勝チームは上り調子で最終レースでは余りミスができませんでした。2, 3位チームは残念ながら

自分達のミスで墓穴を掘った感じです。残念！（齊木）

=====

全日本を終えて

横倉 紀子

全日本への出場2回目となる今回、レース前日に指を怪我してしまい包帯を巻きながらの出場となりました。チームのみなさんにはご心配及びご迷惑をおかけしましたが、力を合わせ楽しく走ることができたのではないかと思います。

特に2日目の1レース目、風を感じながら気持ちよく走ることができました。走りながらチームのみなさんが笑顔でいるのがわかり今年も一緒にレースに出場できて本当によかったと感じる一時でした。

反面2レースで勝敗が決まってしまったので悔しさが残る大会でもありましたが、この気持ちは練習をがんばってきたという証なのではないかと思います。そうでなければ生まれない感情だと思いますので、これをバネに自分の役割をしっかり果たせるような走りができるよう練習に励みたいと思います。

みんなと楽しみながら走ることを心の真ん中に置きこれからもセーリングを続けていけたらと思います。

最後に運営スタッフの皆さん、サポートいただきました皆さん、応援にお越しいただいた皆さん、そして何より頑張った選手の皆さんお疲れさまでした。本当にありがとうございました。

連覇ならず

k i k i 瀬川 紀之

5月末、昨年と同じメンバーで全日本に参加することが決まり、6月から月2回のペースで練習を行い、9月初めのボート天国を経て、今回の全日本大会参加となりました。結果は3位となり、連覇をすることができなかったのが残念ですが、2日間、久しぶりの浜名湖でレースを楽しむことができました。

レースは、ぶっちぎりのときもあれば、最後の第5レグで追い抜かれることもあり、浮き沈みがありチームとして反省点はありますが、JBSA全体としては、選手のレベルの差が少なくなっているのかなあと感じました。また、通常の練習はチーム単独で行うことが多いので、今後、複数艇で接近戦の練習をする必要があるなあと感じました。

個人的には、メインシートトリマーも5年目を迎え、やればやるほどこのポジションの難しさとおもしろさを感じ、ヘルムスよりも自分に向いているなあと感じますが、筋力強化とウェイトアップの必要性も感じ、次回全日本までにプラス5キロを筋肉で増やしたいなあと感じているところです。

次回の全日本は、今回の悔しさをばねに、練習を積み重ねて、2度目の優勝を目指して

頑張りたいと思います。

最後になりましたが、大会の準備をされた浜名湖支部の皆様、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

レポート

安西 常雄

k i k i チーム結成後二度目の全日本、気持ちの中では二連覇を目標に挑んだのですが、まだまだと勝利の女神は微笑んでくれませんでした。

一日目の予選は良い調子で進め、二日目の第1レースも調子良かったのですが、第2レースでは・・・！二日とも第5レグの走りが魔の第5レグになってしまいました・・・残念。

まだまだトレーニング不足を痛感させられました。

台風の被害も無く二日間天候に恵まれ、久しぶりの浜名湖で楽しいレースをさせてもらいました。

又、前泊の夕食&飲み会や館山寺荘での懇親会と、楽しい大会でした。

運営スタッフ及びボランティアの皆さん、大会関係者の皆さん大変有難う御座いました。

チーム k i k i の2011全日本

秋山 淳

チーム k i k i は2010年4月に結成後、その年の9月に横浜ボート天国でサイトッドチーム2チームを相手に対等以上に渡り合い、そのまま勢いに乗って「いわきサンマリーナ」でのブラインドセーリング全日本を制した。

今年に入り同じ9月、ブラインドセーリングの世界王者ニュージーランドチームを迎えての横浜ボート天国では、台風の影響が残る強風の中での6レースの結果、見事王者に競り勝ち優勝を手にした。

チームとしてはここまで順調に成長し、好調を維持しながら浜名湖全日本に臨んだ。

第一日目の予選2レースは1位、2位と無事にクリアできたものの、レースの最後の詰めである最終レグのタクティクスとボートコントロールに不安を残した。第二日目の決勝2レースは、1レース目は無難に1位フィニッシュ。2レース目も最後の風下マークを僅差ではあるがトップで回航、そのままフィニッシュに向かう最終第5レグに入った。その時、強いブローが入り、瞬間、艇は極端なオーバーヒールで失速しながら風下に大きくドリフト。その間に後続艇に先行され、艇の立て直しにも手間取って、結果3位フィニッシュとなった。

ブラインドセーリングの一番不安定なところが、最後の最後に出てしまったということだろうか。チーム4人のそれぞれのポジションの役割のどこかにミスが発生することは多々ある。しかしそのミスを最小限にとどめられるのは4人のコミュニケーションによるところが

大きい。言い換えれば、コミュニケーションがスムーズにいかない場合は、ミスによるトラブルは増幅し回復が大きく遅れることになる。

チーム k i k i としては、確実に成長はしているが、まだまだ課題も多く抱えていることも事実である。このことはチーム全員が自分の問題としてとらえ、明日へ向かって練習を積んでいくことしか解決の道はない。

決勝第 2 レースでの「エオリア」チームの走りは素晴らしいものがあった。風に向かっての角度も他艇と競り合うボートスピードも申し分なく、優勝にふさわしい見事なセーリングだった。

全日本チャンピオン、おめでとう！

最後に、今回の全日本大会開催にあたり、ご支援、ご協力いただいた関係各団体の皆様に深く感謝申し上げますとともに、長期にわたって大会の企画、運営に携わっていただいた浜名湖支部およびボランティアの皆様には厚くお礼申し上げます。

=====

日時：2011 年 9 月 24 日～25 日。場所：浜名湖富士マリーナ

天気：晴れ後曇り。気温：27 度。風：弱～中。使用艇：Y 2 3

浜名湖 SUPPON メンバー

スキッパー：名畑 ジブ；藤王

ヘルムス：板倉 メインシート：内田

今回のレースでは、地元浜名湖からは 2 チーム、関東からは 6 チームの参加があり、総勢 8 チームで競い合いました。用意されたレース艇が 4 艇のため、4 チームずつに別れ 2 ヒート制をとり、初日に予選、2 日目に決勝となりました。

1 日目

くじ引きでレース艇を決め、4 チームごとに各 2 レース行いました。

地元浜名湖なので、イイところを見せたいところですが、同じ組に手ごわそうなチームが 2 チームいたので、もしかすると予選落ちもありかとビビっていました。

我々のチームは後半の組で、まずは前半の組のレースを見学。

同じ浜名湖からのチームがいい走りを見せ、前半の組のレースを圧勝で終わりました。

我々もそれに続けと気合が入ります。

第 1 レース

練習の成果もあり、スタートは上手くいったほうでしょう。風も弱めなので、振り回されることもなく安定して走れたと思います。しかし、最初の上マーク回航時には神奈川チームの kiKi にトップをとられ追走するかたちになりました。他にも、神奈川チームのフライ

ングフィッシュが背後から迫ってきて、三つ巴の争いとなっていました。しかし最後の上りでは、猛烈にまくってゴール手前で KiKi をかわし、1 位でゴール。上出来の走りでしたね（満足）。

第 2 レース

今回も好スタートをきり、安定して走ることができました。しかし、またもや KiKi とフライングフィッシュとの三つ巴です。上りで先頭の KiKi についていこうとしても、こちらの艇の上り角度がイマイチで、走り勝つことができませんでした。さらに、またもや背後からフライングフィッシュが迫ってきており、ゴール手前では危うく抜かれそうになりました。また風向きが安定せず、下マーク回航時には予期せぬジャイブにより、藤王さんがブームパンチをくらってしまいました。眼鏡が破損した程度で怪我はなく一安心でした（藤王さんゴメンナサイ）。結局、第 2 レースは 2 位でゴール。これで予選落ちはなくなり、2 日目の決勝に進むことができました。にしても、神奈川チームは手ごわいです。

懇親会

浜名湖を見下ろせる高台の旅館かんざんじ荘に泊まり、夜は高齢の懇親会です。美味しい料理を食べ、懇親会の後は各部屋で呑み助どもが集まり酔っ払っておりました。これもいつものことですね（笑）。

2 日目

上位 4 チームでの決勝戦と下位決定戦です。初日と同じく、各 2 レース行われました。風は初日より強くなっていましたが、振り回されるほどではない風です。我々は先の上位決定戦に臨みました。

第 1 レース

いいスタートをきり、我々のチームがトップで上マークを回航することに。しかし、ここでマークタッチをしてしまい、ペナルティーの回転をすることになってしまいました。しかも、1 回転でいいところを 2 回転もしてしまい、順位を 2 位におとししてしまいました。その後挽回しようと攻めますが、スピードが上がらず順位をさらにおとし、結局 4 位でゴール（泣）。

第 2 レース

今回もいいスタートをきったのですが、なぜかスピードが上がらずトップ争いに絡めませんでした。風は 6～8 m 吹いていたようですが、危ない場面もなくけっこう走れたと思ったのに、結果はまたもや 4 位（泣）。

後で判ったことですが、我々の艇の底のキールに竹が 2 本も絡まっていたそうです。艇を引き継いだ東京アミーゴチームが、あまりに走りが悪いと感じ調べたところ発覚したそうです。どおりで、スピードがのらないはずですが。にしても、いつの間にかバンブートラップにかかっていたとは、マジ運が悪かったです（苦）。

ということで、総合成績は 4 位となりレースを終えました。

皆さんお疲れ様でした。
来年は、シーボニアで優勝を狙いましょう。

=====

「レースに出場して」
チーム・チャレンジ 230 の安達文洋です。

今大会は第10回そしてJBSA設立15年の節目の年にレースに参加できて本当に皆さんに感謝しております。昨年のいわき大会では、自分の不甲斐なさにもう二度とレースには出たくないと思いましたが、今年7月初旬に金輪さんから「大賀さんが全日本に出場したいのだが、ヘルムスがないので協力して欲しい」との連絡がありました。しかし、自分の技術不足からくる不安と協力したいという葛藤から真剣に悩みました。これまでに大賀さんには大変御世話になっており、少しでも恩返しが出来ればと思い出場を決意しました。その後、浜名湖合宿を含めて6回のチーム練習をして出場しました。結果は5位でしたが、レース終了後、大賀さんから「夢に見たレースに出られて本当に良かった」と言われて、私でもお役に立ったと思うといつのまにか目頭が熱くなっていました。

チームの皆さんといっしょに出場できて本当に良かったです。
最後になりましたが、開催にご尽力頂きました浜名湖の運営委員、オーナー、ボランティアの皆さん、そして応援していただいた皆さんに改めて感謝申し上げます。
有難う御座いました。

チャレンジ230の大賀です。

私は、作年まで運営のお手伝いという形で全日本選手権大会に参加してきました。しかし、今年は是非とも選手としての参加を体験を試みたくなり、6月26日の神奈川クルージングデーに金輪さんに声をかけたところ、話がまとまり、金輪さん・安達さん・中尾さんとチームを組むことができました。
チーム名は7月13日練習後の、三崎口のラーメン屋さんでの団結式で決めました。
安達さんから「チャレンジ」と言う案が出て、全員の年齢を足したところ230歳だったのでチャレンジ230（に一さんまる）に決定。その後「兄さん〇（に一さんまる）」になるよう幾度かの練習を積んできました。
8月には森崎さんほか、浜名湖支部の方にお世話になり、2日に及ぶ浜名湖合宿を実施するなど気合を入れて行きました。

全日本選手権ですが、前日からチーム全員が浜松入りをしてレースに望みましたが、全日本レース参加は私の初めての体験であり、第1レースは完全にチームの足を引っ張るだけで終わってしまいました。（スタート前の秒読みをしても、自分で何を言っ

ているのか分からなくなるほど緊張している自分がそこにいました。)

2レース目以降は多少緊張もほぐれてきましたが、慣れないジブトリで、チームメンバーをイライラさせたことと思います。

とはいえ、素晴らしい仲間を支えられ、5位という成績で終了することができ、楽しい思い出とともに、非常に感動させていただきました。

チームの皆さん、大変有難うございました。

できればまた来年も、この楽しい緊張感を味わいたいと考えています。

最後になりましたが、浜名湖の全日本選手権の運営を担当された方々、艇をご提供頂いた方々、協賛・協力頂いた方々、及び参加されてこの大会を盛り上げて頂いた各チームの皆さまに感謝申し上げます。有難うございました。

全日本を終えて

チャレンジ230 中尾

今回は大賀さんがレースに参加したいという強い希望があり大賀さんが中心になりチームを作り、誘われ参戦しました。ヨットの楽しみ方は色々ありますが、レースもその一つです。視覚障害者と晴眼者がコミュニケーションを取る方法は言葉です。

狭い船の上で瞬時に意思の疎通を図るには練習しかありません。

即席のチームの割には良く練習したと思います。

その気持ちの表れが浜松メンバーのご協力で実現した浜名湖合宿です。

しかし 結果として失敗でした。浜名湖メンバーがどうやら『へなちょこ』と思っていた我々とその時点では同等の走りしか出来なかったのです。

きっと浜名湖メンバーの闘争心に火をつけてしまったのでしょう。

我々は初戦の緊張もあり決勝に残れませんでした。

浜名湖メンバーは2チーム共決勝に残りました。

でも我々も徐々にレースを楽しむ余裕が出てきました。

皆様のご尽力で素晴らしいレースが実現し、参加した我々も

本当に楽しませて頂きました。ありがとうございました。

第10回全日本浜名湖大会に参加して

金輪孝幸

浜名湖に来るのはこれで2度目でしたが、前回も安達さんとのコンビでした。

その時は東京チームに私が入りましたが、今回は安達さんが神奈川に入っただけの出場です。

初日の第1レースは微風のためか、安定した走りができず4着。

第2レースは風も出てきて、アクシデントに見舞われながらも2着でフィニッシュ。

2日目の順位決定戦では残念ながらトップは取れませんでした。2レースとも2着で何とか5位になることができました。

もちろん優勝を目指して練習してきましたが、出来立てのチームとしてはなかなかのもの

じゃないかと思えます。

しかし、下マーク回航時のヘルムにメインをうまく合わせられないという私の課題が、また残ってしまいました。

早くこの課題を克服したいものです。

でも、とても楽しい2日間でした。

チームの皆さんありがとうございました。

そしてこのような素晴らしい大会を運営していただいた浜名湖支部の皆さんやご協力者の方々に深く感謝申し上げます。

ありがとうございました。

=====

第10回全日本ブラインドセーリング選手権大会

Flying Fish 神奈川 杉山隆夫

Flying Fish チームのメンバーは、

ヘルムスパーソン 杉山 隆夫

メインシートトリマー 白子 良明

サイトッドスキッパー 石田 利二郎

ジブシートトリマー マイランケ ラルフ

皆、神奈川のシーボニアでいつも活動している仲間たちです。

24日。

私たちのチームは、石田さんが大賀さんの車で、すでに前日出発。他のメンバーは、ラルフさんの車で当日の朝6時に逗子を出て、予定通り、ほぼ3時間で、富士マリーナに到着しました。

開会式の後、組み合わせと使用艇の抽選会があり、抽選の結果、私たちは、Bブロックの1番艇となりました。

そして、マーク艇（パワーボート）に乗り、最初のAブロックのレースを観戦することになりました。

レースは、レース海面や選んだコースによって大きく差が出る感じで、2レースともトップフィニッシュしたのは、次に乗る1番艇でした。

今度は、海上で、その艇に乗り換えて、いよいよ私たちのレースです。

レースは、横倉さんチームと浜名湖の板倉さんチームが、予想通り、素晴らしい走りを見せたので、私たちのチームも頑張ったのですが、なかなか抜くことは出来ず、結果は、2レースとも3位、残念ながら予選敗退となってしまいました。

25日。

朝、艇の抽選があり、またもや一番艇になりました。

決勝戦が先なので、前日と同じようにマーク艇に乗船。

昨日とは違って、今日は風が上がっていたので、ちょっと寒いし、時々スプレーを浴びながらの観戦となりました。

レースは、調子よく走っている船が急に乱れる、どんでん返しの大変ドラマチックなレースを展開していました。

次は、私たちのレースです。

スタートしてからも、いつもまわりの船の音や声が聞こえていたので、常に接戦のレースだったように思えました。

結果は、第1レース1位、第2レース3位。

レース全体では、

4人揃っての練習の機会が、ほとんどなかったわりには、チームメンバーは、気心の知れた人たちだったので、まあまあ走れたのではないかと思います。

ただレースになると、スタート、競り合った時のマーク回航など細かい所、実際は、そこが勝敗のポイントになってしまったのですが、コミュニケーションの不足が出てしまい、ここで行ければというところのボートコントロールがダメで、石田さんは、もうちょっとなのにと残念がっていました。

やはり、チーム練習は十分しないとダメですね。

今回の大会は、最終日に風が上がりましたが天候にも恵まれ、大変良い大会になりました。

また、Aブロックと決勝のレースを十分観戦出来たことも良かったと思います。

このような素晴らしい大会に参加出来たことを嬉しく思うと共に、大会を企画、運営、サポートされた皆様にお礼申し上げます。

=====

第10回全日本ブラインドセーリング大会参加レポート

チーム アルバトロス

チーム代表 ヘルムス パーソン 村井

ヘルムスを担当していました村井です。まずは、大会を支えていただきました皆様に感謝申し上げます。また、同時に心よりお詫び申し上げます。最もあってはならないケースを起こしてしまい、皆様に多大ならぬご迷惑をおかけいたしました。

私個人としては、浜名湖でのレースはこれが2回目、前回は2003年の大会でした。そのときはまだJBSAに入って一年ほど経過したころで、もちろん、全日本の参加はそのときが初めてでした。当時はメントリを担当していたのですが、なにもまだ良く分からないままレースをしていました。ただ、風がよく変わるところだなあという印象がありました。

それ以来の8年ぶりの浜名湖。振れながら入るブローに対応しながらのレース。しかし、

結果は、ケースを起こしてしまったこともあり、チームは、予選落ち、そして、準位決定選においても、リコールに気づかずにそのまま走ってしまい、下位の成績で終わりました。それでも、初日・二日目の両日ともに、微風から驚風までのコンディション下、良いはしりが出来ていたので満足しています。予選落ち組みの最終レースとはいえ、1着で飾ることが出来たので、次につながる走りが出来たと思います。

しかしながら、艇をぶつけてしまうというあってはならぬケースを起こしてしまったことが悔やまれて止むことがありません。

私は2003年の浜名湖をスタートに、数回の全日本に参加し、メイントリマーとして、ヘルムスパーソンとして、レースでの経験を積み、その間に2度優勝するという機会にも恵まれましたが、これまでそのようなケースを起こすことなくやってこれたのはラッキーだった面が多くあったと思います。艇をぶつけてしまったのはこれが初めてです。7月にチームを結成して初めてのセーリングをしたときに、「がんばりましょう！艇をぶつけないように！」と乾杯したのですが、あのような結果になってしまいました。改めて皆様にお詫びを申し上げます。

マークアプローチにおける過程を良く検討することで、回航をきちんと決めていくための技術を着実にしたいと考えています。そして、メンバーと共にチーム力をアップさせるべく努力していきたいと思います。

=====

東京アミーゴのレポート

岩波

この度、初参加を致しました東京アミーゴ、サイテッドスキッパー、岩波です。私とジブトリマー小林氏を加えたチームの結果は惨敗ですが、大変に充実した試合に参加させて頂きましたことを運営の方々、他チームの方々に厚く御礼を申し上げます。決勝は同点で3チームが並ぶ見応えあるもので、優勝されたチームエオリアの皆さん、とても感動的でした。何分、新参者が故、すべてが新鮮で楽しく、参加することと事故なく終わることで大変な満足感です。期間中、浜名湖チームの藤王様にはハーバとホテル間の行き来を大変にお世話になりました。チーム代表のヘルムス田口さん、そしてメイントリマーの青木こずえさんには今回の機会を作って頂いたことに、感謝を申し上げます。特に代表の田口さんにおいては、夜の部の熱唱で一人900点台を出したポテンシャルに、今後も多方面での活躍を期待しております。

=====

最後までご覧いただきありがとうございました。